

今年の6月23日は78年目の「慰霊の日」、沖縄で戦いが終わった日と、
県民の4人に一人が、常に戦争が住民に強いる犠牲、ウクライナでも
6月14日のゼミは、柄谷行人『力と交換様式』第1部第4章「交換様式D
と力」を後藤さんの報告で行いました。まず、3章での神概念と世界宗教・
普遍宗教からウェーバーまでを考察する。4章ではまず、A・B・Cの次に
Dだか、無力化したAが高次元で回帰し古代社会で出現している。共同体と
共同体の間に交易の発展から帝国が出現し、それは遊牧民・漁民がもたらした。
その帝国を支える一神教として世界宗教が統治のために拡大する。普遍
宗教は絶えず矛盾にさらされ、共同体・民族・帝国の宗教に戻ってしまう。
アレクサンダー大王からローマ帝国・モンゴル帝国まで帝国の規範となり、
ゾロアスター教が初めて世界帝国を可能にした。出エジプト記には原遊動性
を保持していた民がエジプト的な専制国家になったことへの批判が込めら
れている。預言者は神の命令に従い強迫的な力になるのが交換様式Dの問題
である。イエスは王を斥け、国家を斥け、交換様式Bを斥け、家族・共同
体を斥け、さらにCを斥け、神殿から商人を追い出し、貨幣の権威を認めず、
Dの到来とは神の邦の到来である。ソクラテス・中国の諸子百家を考察し、
さらにブッダの宗教がインドの帝国宗教となった。Dは意識的には取り出せ
ず、「向こうから来るもの」である。報告者は論点と問題提起で、神概念と
A・B・C・Dへの変容、ムハンマドが取り上げられていないことを挙げた。
討論では、網野善彦のような日本に即した考察がない。宗教で多面的
に「向こうからくる」とは、霊的なチカラということか。Aは具
体的に論じているが、それではDは具体的にどうなるのか。普遍宗教
とは何か、土着宗教と対比するのか。世界宗教としてイスラム教
はどうか、7世紀のムハンマド・商人ということだが、Dを未来社
会とするなら、否定の否定となるが、それがハッキリとしない。哲
学者は宗教を論じるが、それでは科学的社会主義はどうか。マルク
ス主義と救世主。柄谷の終末論：A→Dを回帰とするのか。
会場参加は小野さん・川口さん・松村さん・山口さん・高田、オン
ライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さんの8名でした。

* 6月28日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。
・オンライン情報 Zoom: ID: 893 5025 7053 パスコード: 773924

***** ゼミ日程 *****

6月28日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第4章 緑の資本主義・・・報告: 斎藤さん
7月12日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
柄谷行人『力と交換様式』第2部 1章 ギリシア・ローマ 報告: 竹内さん
7月26日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第5章 グッドバイ・レーニン 報告者未定
その後 9/13, 9/27, 10/11, 10/25, 11/8, 11/22